



令和6年12月20日

発行 推進委員会

古館 幸恵（花園小学校）



小中共通の教育目標 「明日を創る力を育む」

第2回推進委員会が開催されました

12月6日（金）に第2回推進委員会が花園小学校で開催されました。「教育課程部会」「学力向上部会」「生徒指導部会」では、本年度の成果と課題を確認し、来年度の取組内容の確認や方向性について協議しました。限られた時間ではありましたが、どの部会も有意義な話し合いが行われました。



今年度の小中連携の取組についてまとめましたので、ご一読ください。次年度につなげていきたいと思ひます。

教育課程部

①ICTスキルの小中9年間を見越した指導について

- ・菁園中学校では、達成目標に準じ、目標に合わせて実施した内容を付箋に貼って全体で確認を行った。その後、優先順位を決めて、日々の活用にした。
- ・花園小学校では、FigJamの使用法を習熟しようとしたが、使用感があまりよくなかった。3年生の感覚でも、データの整理や保存は難しいのではないかな。
- ・情報モラルに関する指導については、小中で連携してたたき台を作成した。細かい点についても、年間指導表を作成している。
- ・データの引き継ぎに関しては、小学校から中学校に進学する際に小学校時点のクラスルームが残っているケースがあった。全部消去するのか、ドライブに保存し残していくのか考える必要がある。今年度は、生徒に確認を行った上で、小学校時代のデータを消した。クラスルームを立ちあげた職員、異動する職員は、確実にクラスルームをアーカイブから消去することを周知していく。
- ・今後は、マイドキュメントに小学校のフォルダを作成し、毎学年のフォルダもその中に作成し、毎年、蓄積していく。ただし、中学校卒業時に全ての個人アカウントが消えるので、それを考えると小学校卒業時に、一度全て消去できているとよい。（3月に研修を実施予定）
- ・保護者向けの研修会を合同で行っていききたい。

②AIドリルについて

- ・今年度は、ミライシードを活用してきた。4月からは、どうするのかをそれぞれ検討中。

③総合的な学習の時間について

- ・中学校は、研究部に一任。小中両校ともに新しい年間指導計画を作成中。次年度に向けて、9年間で育てたい生徒像に導けるよう、連携をしていく。

④2学期の専科指導による指導について

・9月6日に5年生を対象とした音楽科の授業、6年生を対象とした体育科の授業を中学校において実施した。また、小学3年生の総合的な学習において、中学校小玉事務主幹を講師に chromebook の操作の仕方やスライド作り等に関する授業を定期的に行い、サポートしていただいた。

・3学期には、4年生を対象に「よりよい生活、学習環境をめざして」をテーマに中学校齊藤教諭による授業を実施する予定。

⑤その他

・冬季休業中に年間行事予定の調整を行う。小中の担当者と、新年度に向けて連携しながら、業務を推進していく。

学力向上部会

①小中交流授業参観、公開研究会参加について

・お互いの授業参観、公開研究会への参加することができた。

・授業参観は、小学校では、低学年の先生方は、授業の関係で難しさはあった。高学年の先生方は、専科の時間を活用しながら、短い時間でも見ることでできていた。中学校の先生方は、時間割の調整が難しく、特に担任の先生は、参観が難しかった。次年度は、小学校の参観時間の5時間目を、時間割の中で割り当てるなどしながら、時間の確保に努めていきたい。



②タブレットの使用状況や履歴などのチェック体制について

・chromebook の使用状況や履歴のチェックなどは、年度当初のみの活動となっている。小学校では、ネット上のソフトを使って、友だち同士での交流が発覚した。常に、子どもたちの声に耳を傾けながら、必要な情報収集に努めていく。

・中学校は、週末の chromebook の持ち帰りが始まり、それぞれに課題が提示され、その課題に取り組むことになっている。課題は、各教科担任に任せる部分が大きくあり、提出義務や取組状況のチェックまでは、今後の課題となっている。

③学習規律の確認と指導の連携について

・机の上の筆記用具の扱いについては、小中の連携が図られてきている。

・chromebook については、小学校は、机の中に入れていたが、教科書の重みで、画面の損傷も危惧されるので、小学校も、ケースごと机の横に下げる方向も視野に入れる。

④家庭学習の連携と保護者啓発の共通指導について

・現中学校1年生のテスト対策ノートを、各クラス1人分、合計3人分のノートのコピーをいただく。

特に6年生は、1年後の姿をイメージできるように、ノート作りの大切さや、その良さを実感できるように促していく。

2月14日以降を予定し、中学校のテストが終わった段階で、ノートを募っていく。

⑤書道作品などの交流の実施について

・中学2年生の作品を中心に、2学期中に作品群を借りて、小学校2階廊下に掲示している。

⑥チャイム着席・次時の授業の準備について

・6年生は、中学校に向けて、1分前着席の意識を育てている。チャイムの前には、席について授業の準備を終えている姿を、当たり前のこととしていく。

⑦次年度に向けて

・どの項目も、単年で育つ力ではないので、今後も継続としていく。お互いの授業交流・授業参観は、それぞれの子ども達の様子をうかがい知れる貴重な時間であることから、次年度も重点としていく。

生徒指導部会

①休み時間の過ごし方の交流について

・時期をいつにするかの検討が必要。(1学期に1回、2学期に1回実施していく。)来年度は、7月16日(水)と17日(木)、10月20日(月)と21日(火)に実施していく。

・長期休業中のきまりについては、市のきまりに則るが、帰宅時刻や外出の範囲などをお互いに確認していく。

②不登校児童生徒への支援について

・小中学校とも電話連絡、家庭訪問、定期的な面会を行っている。中学校においては、ふれあい教室で学習やテストを行う場合もある。

③合同避難訓練について

・実際の災害を想定した場合、校外に避難するのは価値があったが、交通トラブル等、懸念事項が多かった。日時のみ合わせて行動は別だったため、意義を見だしにくかった。来年度も実施するのであれば、花園小学校グラウンドに集まっての避難訓練が妥当ではないか。今後は、集団下校(分団下校)について検討していく。

④いじめ未然防止の取組について

・小学校からは「心あったか運動」の実践報告を行った。全校児童の意識の高揚は見られたが、活動期間の終盤は尻すばみになっていたことから、継続的な実践への課題を残した。

・中学校からは「個性の花を咲かせよう」に向けての活動計画が示され、具体的にどのように実施していけばよいのかという点について、生徒会役員や児童会役員でアイデアを出し合い、今後の活動の指針となるような話し合いを行うことができた。

・本件の取組は道教委や市教委からの要請連絡あってから、限られた期間において取り組むことが多いため、今後小中連携して深めていくことをねらいとするのであれば、事前に計画を立てて取り組んでいく必要がある。

⑤児童会・生徒会の交流について

・潮ねりこみの企画母体が、小学校と中学校では形態が基本的に異なるため、子どもたちが中心となって計画し、提案する形は作りづらい。うちわコンテストも予算的な裏付けもないことから、継続した活動は難しいと考える。

・グリーンロード清掃については、地域への貢献としての活動というねらいや、児童会および生徒会の子どもたちの顔合わせという貴重な機会でもあるので、今後も行っていけるとよい。

⑥次年度に向けて

・小中グリーンロード清掃は継続的に行っていきたい。

・いじめ防止サミットに関しては、できるだけ早期から計画的に行っていければよい。

・中学生による読み聞かせは、とても良かった。今年度は、前期と後期に実施することができたが、今後も早めに日程を調整していく必要がある。



各部会ともに、今年度の成果と課題について確認し、今後の取組についても確認することができました。

お忙しい中、時間を調整して推進委員会ご参加いただき、本当にありがとうございました。